

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	一般社団法人金剛会
公演団体名	一般社団法人金剛会

内容
<p>指導者及び子どもたちは、それぞれに間隔をあけて、十分な換気のもと、次のとおり実施します。実施校への訪問が叶わない場合は、リモートで開催します。</p> <p>① 始まりの挨拶                  ② 「能」・「狂言」とは？                  ③ 絵本読み聞かせ「鞍馬天狗」                  ④ 謡（うたい）を全員で体験してみよう                  →実施校のガイドラインに沿って次のいずれかで対応します。                  1. マスク着用の上、小さな声で全員で体験します。                  2. マスク着用の上、少人数ごとに発表形式で体験します。                  3. 謡以外の体験内容に差し替えます。</p> <p>⑤ 能面をつけてみよう                  →子どもたちが能面に触れずに体験できるよう能面を固定し覗き込むスタイルで実施します。                  &lt;休憩&gt;（10分）</p> <p>⑥ 「能」・「狂言」の舞（まい）や所作を全員で体験してみよう                  ⑦ 能「鞍馬天狗」を演じてみよう                  ⑧ 質疑応答                  ⑨ 終わりの挨拶                  [所要時間90分(途中10分休憩含む)]</p> <p>▼公演当日のワークショップ                  *狂言「柿山伏」の鑑賞にあたって                  *能「鞍馬天狗」参加しよう！～稽古・リハーサル～</p>

タイムスケジュール（標準）					
到着	搬入・仕込み	ワークショップ	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～9:45	10:00～11:30	10分	11:30～12:15	12:15

**派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください**

能楽師：5名（シテ方4名・狂言方1名）、スタッフ：1名 計6名

**学校における事前指導**

特にありません。

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

## 本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	一般社団法人金剛会
公演団体名	一般社団法人金剛会

演目
<p>出演者はマスクまたはフェイスシールドを着け、子どもたちは間隔をあけて着席し、十分な換気のもと、次のとおり実施します。</p> <p>①能のお話 ②狂言「柿山伏」の鑑賞にあたって ③狂言「柿山伏」の上演 ④能「鞍馬天狗」参加しよう！～稽古・リハーサル～ →実施校のガイドラインに沿って次のいずれかで対応します。</p> <p>1. 演出を変更の上、出演する子どもたちのうち、稚児役のみ実施を見送ります。 2. 演出を変更の上、上演中、全員で謡に参加する場面は、代表者のみ参加します。 3. 参加は見送り、鑑賞のみとします。</p> <p>&lt;休憩&gt; (10分)</p> <p>⑤能「鞍馬天狗」の鑑賞にあたって ⑥能「鞍馬天狗」の上演 ⑦能楽師との交流の時間～感想と質問～ ⑧終わりの挨拶 [公演時間90分(途中10分休憩含む)]</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者：21名(スタッフ兼任：1名含む)、舞台・運搬スタッフ：4～5名 計25～26名

タイムスケジュール (標準)					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～11:30	13:30～15:15	10分	15:20～17:20	17:20

実施校への協力依頼人員
搬出入時及び会場設営時に2, 3名のお手伝いをお願いすることがあります。

## 演目解説

### ▼狂言「柿山伏」について

典拠：「宇治拾遺物語」の「実ならぬ柿の木」に説話がみられる。

あらすじ：

山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、喉が乾いてしまい、ふと見上げると見事な柿があることに気づく。木の下から落とそうと試みるが、中々巧いかなかったので、木に登って柿を食べてしまう。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた持ち主に当たり、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまう。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、最後に鳶は飛ぶものだ、と言われ、飛んではみるものの、大怪我をして悪事が露呈してしまう。自分の罪を覆い隠そうとする山伏の滑稽な姿を、面白おかしく描いている。

### ▼能「鞍馬天狗」について

作者：宮増某（一説に世阿弥とも）

典拠：源義経の幼少期を題材とした能。「平治物語」の牛若丸の條、幸若の「未来記」などの伝説から取材したものと考えられる。

あらすじ：

鞍馬山西谷の花見の招待を受けた東谷の僧は、稚児たちを連れて西谷へ行き、花見の宴を開く。そこへ一人の見知らぬ山伏が侵入して来たので、僧たちは座を立てて帰ってしまう。沙那王（牛若丸）は、一人居残って山伏に対し好意を示す。山伏は沙那王を連れて花の名所を見せて廻った後、実はこの鞍馬山に住む大天狗であることを明かし、明日の再開を約して僧正が谷へ飛び去る。翌日沙那王は、約束の場所に来て待っていると、大天狗が輩下の天狗を従えて現れ、沙那王に兵法の奥義を伝え、平家を滅ぼす時に力を添えることを約束して、夕影の暗くなった鞍馬山の杉の梢に飛び去って行く。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

●狂言「柿山伏」の鑑賞にあたってのコーナーで狂言の特徴的な所作などを全員で体験します。

●能「鞍馬天狗」へ稚児役として一部の児童・生徒が舞台に立ち、全員が鑑賞位置から地謡役として参加します。感染状況に応じて実施方法を変更します。詳細は上記「演目」の④を参照ください。

## 児童生徒とのふれあい

●当日出演する能楽師が子どもたちとコミュニケーションをとりながら解説します。

●鑑賞後に能楽師との交流の時間を設けます。子どもたちが鑑賞を発表しあったり、能楽師からも感想を伝え、子どもたちからの質問にも答えます。状況に応じて、子どもへマイクを回す役を実施校の先生へお願いする場合があります。